

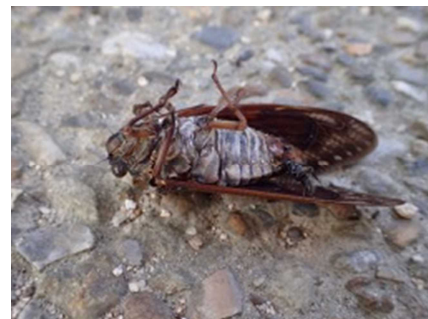
人気がない

1. アブラゼミの死骸

7月下旬から鳴き始めたアブラゼミが暑さを一層感じさせます。8月に入るとツクツクボウシが、遅れてミンミンゼミが鳴き始めると、セミの季節の終盤です。そして1ヶ月程しか寿命のないセミの死骸が目立ち始めます。

死んだアブラゼミは地面に転がっていることが多く、目につきやすいものです。普通、多くの動物の死骸は人の目にふれることはほとんどありません。死骸を餌とする動物がいたり、細菌などにより腐敗し、分解されてしまうからです。

セミの死骸が目につく理由を考えてみますと、個体数が多いこと、比較的大型であることもさりながら、他の動物にとって魅力がないことのようにです。大きな腹部を開いてみると筋肉がほとんどありません。時にスズメバチが



アブラゼミの死骸

アブラゼミの死骸を
食べるスズメバチ

セミを食べている場面に遭遇しますが、頭を突っ込んでいる場所は、腹部の前側から胸側です。翅と鳴器のわずかな筋肉が対象になっていると思われます。乾燥してしまうと見向きもされません。ヒヨドリやイソヒヨドリが飛ぶセミを追いかけて捕らえますが、翅など肉のない部分は捨てています。

目につく死骸の数が多いのはアブラゼミ、次いでヒグラシでしょうか。アブラゼミは個体数が多いためとも思われますが、生息場所との関連もあります。種別に記録してみてもはどうでしょう。

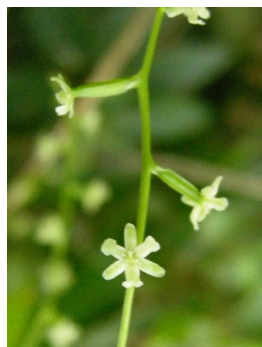
2. オニドコロ

8月初から9月上旬にかけて花がみられるつる植物です。葉がヤマノイモに似ているところから間違えられることもあるようです。打吹山では同じ場所でみられるため比較・区別しやすくなります。

トコロとつくものは、根茎が肥厚してごつごつしたものになりますが、非常に苦くて食べることもできませんし、毒性もあります。塊根が発達するヤマノイモとの相違点は葉形だ

左から
カエデドコロ・オニドコロ・ヤマノイモ

オニドコロの雌花



オニドコロの雄花

けではなく、葉が対生か互生か、ムカゴがつくかと、地下を掘らなくても識別できます。

雌雄異株でたくさんの花序(かじよ)をつけます。雄花の花序(花の穂)は上を向き、雌花の花序は垂れ下がっています。花の形もヤマノイモに比べると可憐に見えます。同じ場所で、雄花・雌花ともに花序が長く垂れ、花弁が黄色のものはカエデドコロです。